

平成28年度「土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール」作文中学生の部 最優秀賞
(群馬県知事賞)

「土砂災害で学んだ事」

渋川市立渋川北中学校 1年 三俣 結

今年(2016年4月14日21時26分)に一度目の熊本地震が起きました。気象庁震度階級では最も大きい震度7を観測する地震でした。そして2日後の2016年4月16日1時45分と3時3分にも地震が起きました。この二度目の地震で土砂災害が起き、阿蘇大橋が崩れ落ちました。このニュースを見て私はびっくりしました。なぜびっくりしたかと言うと私が1年生の時に知り合いがいる熊本県まで行ったことがあり、その阿蘇大橋を通ったことがあるからです。その日は知り合いの家から帰ってくる時でした。私は車で何げなく通った道です。とても大きな橋でした。雨で辺りはよく見えませんが緑がたくさんあり渋滞していました。その時見た阿蘇大橋のイメージは大きくて、がんじょうでそう簡単には崩れる心配は少しもなく阿蘇山も大雨でしたが崩れる様子はありませんでした。そんな阿蘇大橋が4月16日の二度目の地震と土砂災害で一夜にして崩れ落ちてしまったのです。私はテレビをつけた時あんな丈夫な阿蘇大橋がとあぜんとしてしまいました。そして私は阿蘇大橋について調べてみました。長さ205.9メートル、幅8.8メートル、高さ76メートルで建設されたのは1969年から1970年の一年間で、アーチ形が特徴の橋でした。こんなに大きな橋を崩した阿蘇山の土砂はどうなのだろうと調べてみました。そして土砂の種類は火砕流堆積物といって火山の噴火で降り積もった物でした。ほかにも調べてみました。カルデラ壁といって火山が噴火して山の上の部分がとれたときにできる崖のことです。阿蘇山はそれが弱い地質構造なので土砂災害が起りやすかったそうです。そして雨がふったためと思われるそうです。こうしてみると渋川市も同じです。榛名山を挙げると阿蘇山と同じように噴火をし、現在榛名湖となっている穴をくぼみとして見ると榛名山にもカルデラ壁があることが分かります。そして阿蘇山もアクティビティなど観光をしていますし榛名山も榛名湖を使つてのボートなどのアクティビティなどがあります。そのような点もふくめて榛名山と阿蘇山は似ているつまり渋川市にも阿蘇大橋のような大きな土砂災害が起きるかもしれないということになります。このことを考えた時私はハッと思いました。今年の5月、私は学校で榛名へ行ったことを思い出しました。榛名でのハイキングです。私はカルデラ壁をのぼっていたと思いました。きりがたくさんありましたが緑がたくさんあり、空気が気持ち良かったのを覚えています。しかしここに土砂災害が起きたら？と阿蘇山と同じになった時のことを考えてみました。あの時に味わった緑も、空気の気持ち良さもみんな土砂に流されてしまうんだと思いました。このことを知り私たちの身のまわりにも土砂災害というとても危険なものが常にあるんだと分かりました。また話はもどりますが阿蘇山での土砂災害で亡くなった方がいました。その方は4月16日の大規模な土砂災害のさいに行方が分からなくなったとみられていて車で走行中に土砂崩れに巻き込まれたとみられているそうです。しかし災害から約15日間で二次災害の恐れがあるため今のような形での捜索は本日で終了すると述べた。このような大規模な土砂災害が起きると人一人見つけるだけでもだん念してしまうのだと思いました。そして土砂災害は一度ではなく「二次災害」という言葉が出てきてとてもびっくりしました。これ以上の悲惨を起してはならないと思いました。そして8月10日午後、捜索が再開され、行方が分からなくなっていた大学生が発見されました。私は見つかって、やっと家族のもとに帰れるのだと思い本当に良かったです。しかしご両親が抱きしめたいけどと言っていました。それがとてもつらい事だと思いました。

この大学生は地震が起きる、土砂崩れが起きるとまさか思ってもいなかったでしょう。しかし思ってもいなかったことが起きました。今回の熊本地震を通して分かったこと学んだことことは2つあります。1つ目は自分が思っていなくても災害は起こることです。あの大学生のようにまさか自分が思っているにも本当に自分の身にくると言うことです。2つ目は今まで土砂災害にあつてなくても身近にはたくさんの危険があると言うことです。2枚目と3枚目のように災害が起きた地域と自分が住んでいる地域を比べてみるとたくさん似ているところがあります。このようなことを解決するためには一人一人が土砂災害のことをくわしく知り、身近にあることを自かくして防止することが大切だと私は思います。私自身もこの作文で土砂崩れのこわさや土砂の種類、阿蘇大橋のことなど「土砂災害」と言う災害についてたくさん学べて良かったです。